

子ども会発案、遊び楽しむ

笠間 名産品と競技組み合わせ



稲田石を積み上げる参加者＝笠間市北吉原

子どもたちの地域活動を
進めようと、笠間市の下市
毛子ども会と稲荷町子ども
会が企画・創作した遊びを
楽しむ「クリスポ」が2日、
同市北吉原の市立みなみ学
園義務教育学校で開かれ、
両子ども会の児童生徒ら約
20人が、ひと工夫加えたパ
ターゴルフなどに挑んだ。

クリスポは「クリエイテ
イブ・スポーツ」の略。体
を動かす機会をつくること
も、子どもたちの郷土へ

の興味関心を高め、想像力
育成を図ることを目的とし

た。ニューホライズンコレ
クティブ（東京）が企画を
支援した。

8月31日に両子ども会の
児童生徒約20人が集まり、
「笠間にちなんだ遊びを考
える」をテーマに、笠間の
名産品や伝統とスポーツを
組み合わせ実施する競技を
検討。約60のアイデアの中
から実現可能な4種目を選
択し、保護者と同社がゲー
ム・ルール化した。

設定した種目は栗のいが
をボールにする「栗パター
ゴルフ」と石を積み上げる
「いなだストーンチャレン

ジ」、仲間の指示を頼りに
フラックを取る「テング目
かくしビーチフラッグ」、
栗を運び箸やトンクで器に
入れる「笠間焼栗うつし」。
参加者は4グループに分
かれチャレンジ。好プレー
や巧みな手つきを見せる
と、仲間同士でたたえあっ
た。下市毛子ども会の山田
悠仁さん(11)はテング目か
くしビーチフラッグを終え
た後、「指示は聞こえたが
フラックを取るのに苦戦し
た。ほかの子ども会の人と
話ができて良かった」と感
想を述べた。(高野祐一)



笠間市社会福祉協議会

下市毛地区

社協だより

第29号

2025.11.20

特別号

かさまやき くり
笠間焼栗うつし



下市毛子ども会で実施した「クリスポ」
が、「茨城新聞」(2025年11月9日付)に
大きく紹介されました！子どもの数が少
なくなり、子ども会も解消する地域がある中
で、あたためて地域の中で子どもの発達を
願い、子ども同士のつながりを大切にする
ために、夫人がつながって企画された取り
組みです。敬意を表します！（区長 F）

「茨城新聞」2025年11月9日付